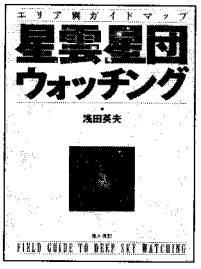

「星雲星団ウォッチング」

著者：浅田英夫　B５　150ページ，定価2,060円
地人書館　96年2月初版第1刷

解説書

お薦め度
☆☆☆☆☆

最近では，公共天文台の中・大型からアマチュアの所有する小型望遠鏡にいたるまで，天体の自動導入や赤経・赤緯座標のデジタル表示があたりまえになってきた．

そのためのパソコン用ソフトも発売され，メシエ天体やNGC天体の番号や名称を入力するだけで，望遠鏡が自動的に目的の天体に向き，パソコンの画面にその方向の星野が表示されるなど，便利になってきている．

こうなると，星図を片手に，ファインダーと格闘しながら，目的の天体を視野の中に導くのは過去のものになったのかと心配になる．星の配列を追いながら，望遠鏡を目的の天体に向ける作業は，星空や天体に親しむと同時に，望遠鏡の操作を覚える早道なのである．

現在の望遠鏡自動化の時代に，本書のように自分で星を導入し，自分の目で星を見ようと主張するガイドブックが出版されたことを喜ぶのは評者だけではないだろう．

さらに本書は，従来の類書には見られない，さまざまな工夫によって，初心者に強くお勧めしたいガイドブックに仕上がっている．

まず一番の特徴は，星座早見や大判星図を携帯しなくとも，本書と望遠鏡（双眼鏡）だけで星雲星団ウォッチングができるよう工夫されていることである．

そのために本書では，全天から50のエリアを選んで，各エリアごとに見開きページで紹介しているため，双眼鏡を片手に気軽に星見を楽しむことができる．

見開きページの左ページには，非常に広い範囲を描いた星図（星座早見的に使用できる）と，眼視星図，右ページには天体ごとに双眼鏡やファインダーの視野に相当する7°の範囲を描いた円形星図を掲載し，それらをうまく対応づけている．

さらにこの円形星図の周囲には，それぞれの天体を見たり撮影した際にチェックが入れられるよう工夫されている．観望をしながら少しづつチェックが増えていくというのは楽しいアイデアである．

また，各エリアの天体の位置等を示したデータ欄には「おすすめ口径マーク」と呼ばれるマークが付き，それぞれのマークにより手持ちの機材で見えるかどうかの目安が簡単につけられるのも，初心者にはわかりやすいであろう．

全天を50のエリアに絞って紹介しているため，掲載天体は199と決して多くないが，本書の利用目的や読者層を考えると適当な量である．しかも掲載天体として星雲星団だけでなく，例えば「みずがめ座の三ツ矢マーク」や古星座の「ポニアトフスキーのおうし座」等，双眼鏡で楽しむのに適した星の並びも併せて紹介していることは，初心者に対する配慮として評価できる．

あえて苦言を述べれば，カラー写真があまり良い出来でない．思い切ってカラーページをなくしてしまってもよかったのではないだろうか．

双眼鏡と本書を携えて，どこか空のきれいな所に出かけたい，そんな気にさせる一冊である．

（東京都八王子市　宮坂正大）